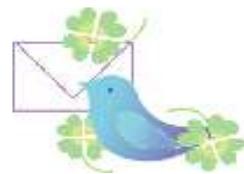


のびやか

62号



右の写真は、平成27年8月23日の「第15回青い鳥夏まつり」の様子です。



62号発行にあたって

一日ごとに秋の色がこくなってきております。食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋…。みなさんは、どんな秋をお過ごしですか。

豊かな実りをもたらす自然の恵みも、折には大変な脅威となります。先日は台風21号にともなう豪雨が関東・東北を襲い甚大な被害をもたらしました。被災されたの方々へのお見舞いを申し上げます。

15年前の同じ時期、私たちの地域も豪雨に襲われました。当センターも1階部分は冠水、医療機器や備品、カルテなども水没し大きな損害を被りました。入所している利用者さんたちは2階に避難、センター周辺の地域の方々もセンターに避難されてきて、誰もが恐怖と不安にさいなまれながら混乱の中を過ごしました。

その後の復旧にむけて、多くの地域の関係者やボランティアの方々のご支援、ご協力をいただきました。その際に私たちは、青い鳥のことをもっと地域の方々に知ってもらうことの大切さを感じさせられ、「青い鳥夏まつり」を開催し交流を図っていくこととしました。その「青い鳥夏まつり」も今年で15回目となりました。62号では、「青い鳥夏まつり」の様子も紹介させていただきます。

平成27年10月吉日

目次：

シリーズ 言語聴覚士からのおはなし	2~3
地域療育研修会 実施報告	4~5
入所部門・職員部門	6
卒業生の手記	7
掲示板	8

シリーズ ～ 言語聴覚士からのお話し～ その 1

「AAC — 拡大・代替コミュニケーション—」

青い鳥医療福祉センター リハビリテーション部

言語聴覚士：桂川 太一

今回から3回（予定）にわたり、言語聴覚士からコミュニケーション支援の実践について紹介いたします。第1回目となる今号は桂川が担当します。よろしくお願いいたします。

私たちは普段の生活の中で『ことば』を使ってコミュニケーションをとっていますが、重度自閉症スペクトラムの方や、運動機能の障害を持つ人にとっては、音声を使ってコミュニケーションをとることが難しいこともあります。そういった方々の意思を相手に伝えるための方法やその方法を考えることを、

AAC (Augmentative and Alternative Communication：拡大・代替コミュニケーション) と言います。

このAACの基本的な考え方は、事故や病気などにより自力で歩行することが困難であっても、車いすなどの工夫をして移動手段を手に入れるのと同様に、話すこと・書くことが難しくても、何らかの工夫やツールを使うことによって、ハンディキャップをクリアにしてコミュニケーションを可能にしていこうという考え方です。

AACの方法は、こういった手段を用いていくか、という点において大きく3つに分けられます。

- ① 非エイド・コミュニケーション：
『物』を使わない方法
- ② ローテク・コミュニケーション：
非電子機器を用いる方法
- ③ ハイテク・コミュニケーション：
電子技術を駆使した機器を用いる方法

それぞれのメリット・デメリットや利用者のニーズを考慮しながら、どの方法を用いるか選択していきます。私たちが普段は話し言葉を使いながら、時によってメールや手紙、身振りを交えてコミュニケーションしているのと同様

に、いくつかの方法を併用していくことも多くあります。

① 非エイド・コミュニケーション

はじめに『物』を使わない、非エイドコミュニケーションについて説明していきます。これには私たちが自然に会話に取り入れているような、「Yes/Noで答えられるような質問をすること」も含まれています。その他には口の動きを読む「読話(読唇)」、口の動きで母音を表し、子音をサインで表す「キュード・スピーチ」、ベビーサインなどの「ジェスチャー」が用いられます。



② ローテク・コミュニケーション

文字や絵、シンボルなどをボードやノートに配置し、指さしなどで示すことで相手に意思を伝える方法です。そのために使用されるボードやノートをローテク・コミュニケーション・エイドと呼びます。

子どもなど、文字を理解できない場合には、写真や図形シンボルを用いたエイドが作成されます。そして成人など文字理解の良い場合には文字盤なども用いられています。



コミュニケーションボード(例)



透明文字盤

③ ハイテク・コミュニケーション

パソコンやスマートフォン、タブレット端末などの電子機器を用いた方法です。VOCA(Voice Output Communication Aid)は事前に音声を録音し選択して出力できるコミュニケーションボード形式の物や、文字盤に対応し、文章も出力させるタイプのものがあります。



VOCA(メッセージメイト)



トーキングエイド

より重度の障害を持つ方に対しては、目線やまばたきなどでスイッチ操作の援助するものもあります。

近年ではスマートフォンやタブレット端末の普及と様々なソフトウェアが開発されてきていることにより、特にハイテク・コミュニケーションの分野では選択肢が増えてきています。



左の写真は
青い鳥の
ST室の
様子です。

地域療育研修会 実施報告

第1回：平成27年7月21日（火）

第2回：平成27年8月25日（火）

当センターでは、愛知県からの委託事業である「障害児等療育支援事業」の一環として、地域において障害児（者）の療育に携わっている方々にむけての地域療育研修会を実施しています。今年度は、障害や発達に関する基礎研修を4回、療育施設職員対象とした現任研修を2回予定しております。7月21日および8月25日に実施いたしました研修会について紹介いたします。

第1回地域療育研修会（7月21日）

講演：地域における青い鳥医療福祉センターの役割

講師：栗田和洋センター長

栗田センター長から当センターの沿革と事業内容についての説明、また主に重症心身障害児をとりまく最近の社会の動向や情勢について解説しました。また、当センターが地域において果たしていくべき役割についてお話しをしました。中でも発達障害児を含む「地域療育支援」については、日常の生活や保育を通して発達を見守る地域での支援がより重要になることや、「障害」の支援ではなく、気になる子どもと不安を抱えている家族への「子育て支援」の視点が必要となることなどを説明いたしました。そのための一貫した支援の連携システムの充実を図ることが課題となること、共生できる地域社会の実現が、青い鳥と地域の関係機関、支援者の役割となることを提言しました。



講演：子どもの睡眠と発達

講師：安井泉地域療育支援部長（小児科医）

安井医師から、子どもにとっての睡眠の役割と必要性、睡眠が発達に与える影響などについて講演を行ないました。小児では脳が発達することで睡眠も発達し、睡眠が身体を成長させていきます。また、発達障害、重症心身障害などの特性によって、睡眠の特徴や問題が相違することを、その原因の説明を交えてお話ししました。生活や睡眠のリズム、睡眠と成長との関連をグラフやデータを提示し、記憶の定着に睡眠が関係することと併せて説明しました。また乳幼児にとっての午睡（お昼寝）の重要性もお伝えしました。療育施設の保育士さんたちにとっては、貴重な療育の時間の中で、取り入れたい活動と午睡の時間をどう設定していくかなど、考えさせられることも多かったようです。



※ 今回の研修会では、当センターの施設見学の時間（30分程度）を設けました。講演が関心の高いテーマであったこともあり、第1回研修会には100名を超える方々が参加されました。そのほとんどの方々が見学を希望されたため、見学や説明の時間が短くなってしまい申し訳ございませんでした。

第2回地域療育研修会（8月25日）

講演：青い鳥のコミュニケーション支援

講師：高田直人言語聴覚士

青い鳥で、ASDの診断を受けた子どもに実施している言語聴覚療法の「コミュニケーション支援」について紹介をいたしました。他者の心を理解する「心の理論」とコミュニケーションについて、定型の発達と発達障害児の成長を照らし合わせながら説明しました。言葉、身振り、表情を使って他者とのやりとりを成立させるため、まずは子どもに寄り添い、一緒に楽しく関わり共有体験を重ねるコミュニケーションセラピーについてお話ししました。また説明に合わせて、子どもたちの実際の様子や変化などを、動画で紹介しながら、講演いたしました。

講演：自閉症スペクトラム児の理解と支援

講師：小川しおり児童精神科医師

今年度4月に着任された、児童精神科の小川医師による、発達障害についての基礎研修を行いました。発達障害の特性についてお話しさせていただき、特に乳幼児期にみられる特徴と子どもに対する基本的な支援について説明しました。また保護者の気持ちの変容、その際の支援者の接し方などをお伝えいたしました。発達支援は、家族支援であること、そのためにも地域のみんで力を合わせるサポートネットワークの大切さを、研修に参加された支援者の方々と共有できたと思われまます。

講演後も、何名かの参加者が、小川医師に質問をされており、療育や保育の現場で試行錯誤されている支援者の大変さを感じさせられました。

（地域療育担当）

第15回 青い鳥夏まつりを実施して

実施日：平成27年8月23日（日）

8月23日に「第15回青い鳥夏まつり」を実施しました。職員による模擬店、施設体験コーナーや地域の福祉施設関係者による出展があり、多くの来場者の方々や青い鳥の利用者さんたちにも楽しんでいただけたことと思えます。表紙でご紹介したように、「青い鳥夏まつり」は平成12年東海豪雨による被災体験を機に、地域の方々との交流を図るために開催しております。

大きな災害からの避難、そして復旧への過程で、障害児・者の方々のご苦労は想像を絶するものがあると思えます。命の危険にさらされる状況下で、社会的少数派で声を挙げることのできない障害児・者と家族の安全を、社会はどのように守ることができるのでしょうか。「東日本大震災」そして先日の「関東・東北豪雨」、災害が起きるたびに、その議論が繰り返されます。

障害児・者や子ども、高齢者など生活支援が必要な方々がもれなく一緒に災害から守られ復旧にむけて一緒に歩いていける「自助・共助・公序」の連携がとれた社会こそが、真に豊かで安全な社会なのでしょう。これは災害時に限ったことでなく、「最も弱い人たちがもれなく守られる社会」が「誰もが幸せに生きられる社会」である（社会福祉法人全国重症心身障害者（者）を守る会の理念の一つ）ことと同様だと感じます。

「おまつり」という賑やかで楽しいひと時でありましたが、私たち「青い鳥」も地域社会の一員としての使命と施設としての理念を、再認識させられました。

これからも私たちは、地域の一員として、青い鳥の役割とは何かを考えながら、事業運営にあたっていきたく思います。

入所部門**医療型障害児入所施設 「なのはな棟」****夏祭りに参加しました！**

なのはな棟の子どもたちも、毎年夏まつりを楽しみにしています。

おこづかいをもらって、模擬店でみたらしやわたがしを買ったり、ビンゴや輪投げなどのゲームも楽しんでます。

食べたり見たりするだけでなく、子どもたち有志でイベントに参加もしています。

今年は、「なのはな48」をやりました。

みんなでいっぱい練習しましたー(*^^)v

本番前は楽しみで朝からワクワク、ソワソワでした。

準備完了！！いざステージへ！！

一番楽しんでいたのは・・・

自分達でしょうか？

夏まつりにいらっしゃった方々と音楽を通して楽しい時間を共有出来た経験は、素敵な夏の思い出になりました♪

(なのはな棟 前田)

♪なのはな48

夏の思い出～(^^)

職員部門**すまいる音楽隊 (青い鳥職員有志のバンド)**

夏まつりの恒例となった、青い鳥職員有志のバンド「すまいる音楽隊」今年も演奏させていただきました。

演奏だけでなく。パラシュートで、思いきり盛り上がりました♪



「すまいる音楽隊」は夏まつりの時だけでなく入所の利用者さんが、生の演奏を楽しめるように、演奏会をおこなっています。音楽大好きなメンバーは、演奏会だけでなく普段の日中活動でも、利用者さんたちに音楽を楽しんでもらえるように、がんばっています♪

なのはな棟 卒業生からの手記 「自立にむけて」 その6

初めての一人旅in大阪

5月4・5日と、大阪に行ってきました。ケツメイシと新日本プロレスを観に行く計画をし、2日目は一緒にプロレスを観る友だちに、事前に介助をお願いしました。いやあ、正直な気持ち、怖かったです。

1日目は家を11時に出て、近鉄のところまで行って切符を買おうと思いました。名古屋駅の駅員さんは、さっぱりしていて対応が悪い印象でした。でも、今回は話しも聞いてくれて、「〇時の△△までの特急をお願いします」と僕が言ったら、駅員さんは「わかりました。一緒に買いに行きましようか」と言ってくれました。お金を出すのも手伝ってもらい、案内もしてくれました。それが当たり前なのかわかりませんが嬉しかったです。

名古屋を出た時、楽しみ半分、不安な気持ち半分でした。電車で、2時間何やろうと思いつつ眠たくなって寝まして、大阪に着いたら「大阪やんか、関西弁に切り替えよう」と思い、難波で降りました。そのまま大阪城ホールまで地下鉄で向かいました。途中、乗り換えの駅員さんの対応が悪くて、「なんやねん。しっかり対応せえへんか」と思いながら乗りました。大阪城ホールの近くの駅は、ホームと地下鉄がフラットになっているので、乗り降りが自分でできるから便利です。ただ、切符を買ったり、何か頼む時に、駅員さんの人数が足りないかもしれません。

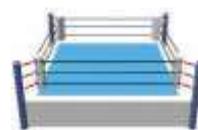
大阪城ホールまで行く道が分からないまま、エレベーターで上がり、道の端に座っていた2人組みに「大阪城ホールまでどうやって行けばいいですか」と聞いてみました。すると、「ちょうど行くところでした。一緒に行きましようか」と言われたので、「お願いします」と言い、一緒に行くことになりました。「どこから来たん?」と聞かれ、「愛知県から来たん」と言うたら、「ほんま、すごいやん」と言われました。「そんなことないねん。よく大阪にくるんよ。自分らは、どこから来たん?」と聞いたら、「兵庫県から来た」と言われ、「ほんまですか?めっさ近い

やんか」など話しながら向かいました。

大阪城ホールに着いたら、「せっかく出会えたから連絡先を交換しようか?」という話しになってん。「兵庫県に来る時は、介助するから連絡してや」と言われ、「わかったで。よろしくな」と言って別れました。ほんま、さみしかったん。また、兵庫県に遊びに行こうと思ったねん。ライブは、感動したり、ケツメイシの新しい魅力があつてん、最高やったん。

ライブが終わり、駅までどうやって行けばええか分からなくなつてん。どうしようと思つていたら、若い3人組に「自分、何してん?」と声をかけられました。「迷つてしもてん」と言うたら、「駅まで行こうか。雨降つてるし、ゆっくり話しながら行こうか」と言われ、「宜しくな、ほんますまん」と言うたら、「別にええよ。」と伝えてくれて、ほんま、嬉しかったん。大阪の街は、昼間と夜の顔がわからへん。若い3人組とは、いろいろ話して、連絡先を交換し、「また、大阪や音楽フェスある時は一緒にいこうな。あと大阪と香川県に来る時は介助するから連絡してや」「ホテル着いたら連絡してや」と言ってくれました。ホテルにむかい、無事に友達とおちあいました。

2日目は、一緒にプロレスを観に行く友だちと動きまして、NGKのあたりで、たこ焼き屋を2軒まわり、本場のたこ焼きはほんまにうまかつてん。名古屋では、食べられへんくらいです。プロレスも大阪城ホールでした。いやいや、感動しました。プロレス最高やで。帰りは、トラブルがありましたが、無事に帰りました。最後のつめをもっとしっかりせえへんとあかんなあと反省して、いつか大阪に住みたいと思いました。毎日、日々勉強です。来月も、友だちと大阪旅行に行く予定です。



(阿部 真澄)

